

第1回 地球内部・地球環境・地下圏微生物専門部会 議事録（案）

日時：2003年6月28日（土）13:00～16:35

場所：東京大学海洋研究所 講堂・講義室

出席者（敬称略）

○地球内部部会

部会長：荒井章司（金沢大）

委員：海野進（静岡大）・小原泰彦（海上保安庁）・道林克禎（静岡大）・山崎俊嗣（産総研）・望月公廣（東京大）

○地球環境部会

部会長：多田隆治（東京大）

委員：長谷川卓（金沢大）・松田博貴（熊本大）・保柳康一（信州大）・伊藤孝（茨城大）・大河内直彦（JAMSTEC）

○地下圏微生物部会

部会長：北里洋（JAMSTEC）

委員：山本啓之（JAMSTEC）・鈴木聡（愛媛大）・奈良岡浩（都立大）・青木和弘（核燃サイクル機構）

○コンソーシアム執行部担当者：巽好幸（JAMSTEC）・井龍康文（東北大）・加藤憲二（静岡大）・徳山英一（東大海洋研）

○オブザーバー：山田康夫（JAMSTEC）・斎藤実篤（JAMSTEC）

○コンソーシアム事務局：田中武男・西川徹

欠席者（敬称略）

○地球内部部会：阿部なつ江（JAMSTEC）・山野誠（東大地震研）

○地球環境部会：林田明（同志社大）・谷口真人（地球環境学研）

○地下圏微生物部会：高井研（JAMSTEC）・丸山明彦（産総研）・鈴木徳行（北大）

議事内容

① 共通事項（司会：北里地下圏微生物専門部会長）

13:00～14:15 16:10～16:35

1. IODP部会長挨拶

徳山IODP部会長より、開会の挨拶があった。

その後、本日の議長として、北里地下圏微生物専門部会長が指名され、異議なく認められた。

2. コンソーシアムの現状

コンソーシアムの設立経緯及び現状について、事務局（西川）・IODP部会執行部（巽）から説明があった。

IODP部会の各専門部会の活動にあたり、①国際パネルの対応、②プロポーザルのサポートの主に2つのタスクがあることが確認された。

国際パネル（科学立案評価パネル；SSEPs）からのexternal reviewの受け皿として、今後この3専門部会が対応してゆくことが確認され、（コンソーシアム内外・国内外広い範囲での）reviewerの候補者リストを専門部会として準備しておくことが確認された。

3. 部会長・委員紹介

各専門部会長から、専門部会の委員が紹介された。また、議長から、IODP部会執行部の各専門部会担当者、オブザーバーが紹介された。

4. IODP における各部会の位置づけ

事務局（西川）から、IODPとコンソーシアムとの関係、及び各IODP国際パネルとコンソーシアムIODP部会各専門部会との対応関係が説明された。

SSEPsのうち、生物関係のパネル（BSSEP）については、現在のところ、設置されるかどうかが不明なため、当面は3専門部会で2つの国際パネル（ISSEP、ESSEP）の対応を行うことが確認された。SSEPsの構造が確定するまでの当面の間、地下圏微生物専門部会は、地球内部・地球環境の各専門部会にリエゾンを派遣するなどの綿密な連携体制をとってゆくことが確認された。

5. 普及・広報について（シンポジウム、ワークショップの開催）

事務局（西川）から、コンソーシアムの予算の概要について説明があり、会員提案型活動経費を利用し、会員主体の普及・広報活動をコンソーシアムが後援する体制が整っていること、コンソーシアムの全体予算の中に、コンソーシアム主催の普及・広報活動、パンフレット作成費当のための予算が計上されていることが説明された。また、現在作成中のコンソーシアムパンフレットの原案が紹介され、7月中を目途に印刷・配布できる見込みとの説明があった。

また、9月の地質学会で、設立準備中の陸上掘削部会と共同で、コンソーシアムの活動に係るタウンミーティングを開催することが報告された。

6. 予算獲得について（科研費補助金の申請など）

徳山IODP部会長より、コンソーシアム内外での予算要求の現状について説明があった。主に、以下の活動が進行中とのこと。

- ・科研費枠（時限付き分科細目）の申請・・・ボトムアップの活動
- ・H16年度要求に向けた各機関ごとの予算要求
- ・文科省審議会内の委員会（深海掘削委員会）での審議→予算について話題。プロジェクト立ち上げに向けた動きが始まる。

7. 高知大学海洋コア総合研究センター、東大海洋研Seismic Research Centerの利用について

コンソーシアムとしての高知大学海洋コア総合研究センター、東大海洋研Seismic

Research Centerの利用に向けての取り組みの必要性について、異IODP部会執行部員から説明があった。これらの科学推進に有益なファシリティをいかに効率よく運営してゆくか、コンソーシアムから科学的な立場で意見を述べてゆきたい。

これについて、各ファシリティを所有する機関とコンソーシアムとの関係について、質問があった。これに対し、執行部より、コンソーシアムが、日本のIODP関連の科学を推進する研究機関連合体として意見を述べることは可能ではないかとの見解が説明された。

一方、文科省からコンソーシアムへ向けた資金の流れは、どのようなものが想定されるか、との質問があった。これに対し、執行部から、コンソがこれら文科省主導のプロジェクトに積極的に関わってゆくことで、文科省・コンソーシアム相互に利用しあう関係となるであろう（科学的な面はコンソーシアムが主導的な立場をとるであろう）との見解が示された。

関連して、徳山IODP部会長より、今後、高知大学海洋コア総合研究センターの紹介と、これらの有効利用に関するディスカッションを行うため、ワークショップのような会合を設ける予定であるとの報告があった。詳細は決定次第連絡するとのこと。

11. その他

次回の専門部会は、第1回SPC会議（9月;札幌）後、10月中旬ごろに行うことが確認された。必要であれば、3部会合同で開催する。

これまでIODP科学推進委員会が行ってきた、プロポーザルサポートシステムについては、その役目が終了し、コンソーシアムでは公式なサポートシステムを持たないことが確認された。ただし、今後プロポーザルをサポートするため、各種シンポジウムの開催を積極的に行ったり、コンソーシアムに対しサポートの依頼が来た場合に対応できるよう配慮するなど、プロポーザルサポートシステムの精神は維持し、今後もコンソーシアムとして、よりよいプロポーザルが我が国から出されるよう活動してゆくことが確認された。

今後の部会運営について、以下の点が事務局から提案された。（特に異議なし）

- ・専門部会の開催は年2回程度とし、開催時期は部会長が必要と認めたときとする。
- ・部会長が認めた場合、部会としてオブザーバーの参加を求めることができる。そのほか、特に希望する者がいる場合は、傍聴は自由とする。
- ・今後、議事録の作成は、各専門部会内で対応する（今回は合同開催のため、共通討論の部分は事務局が作成）。

② 個別検討事項 14:30～16:10

各専門部会に分かれ、暫定期間後の国際パネル（科学立案評価パネル）委員の候補者及び特定任務掘削船乗船研究者・技術者の候補者について意見交換がされ、それぞれの候補者に関する専門部会案が検討された（候補者名については、本人の了承がないため議事録への掲載は避ける）。本件については、各専門部会の個別討議の後、再度合同会議を行い、候補者について3専門部会の案が確認された。これについては、今後、他の専門部会・国際パネルとの

調整を行い、その後本人及び所属機関への確認を行うこととなった。なお、他の専門部会との調整は、各専門部会長及びIODP部会執行部に一任することとなった。

なお、地下圏微生物専門部会では、部会の役割について確認を行い、次回専門部会を10月18日（土）に、高知大学海洋コア総合研究センターで行う予定が確認された。

以上